

「校則を変える」ことの 理想と課題

津山市・津山中2年 福田 智優

「必要性が説明できない校則は速やかに見直したい」という一文がとても引っかかった。僕自身も校則を変えたいとは思うが、そう簡単にできることではないのではないか。

つい先日、クラス協議が行われ、私は
達のクラスではいわゆる「ブラック校
則」についてメインの協議になつた。
そこで考え方や価値観、立場が違うこ
との難しさを痛感した。

今回、主な協議としてあがーたのは下着（カツターの下に着るシャツ）についてだ。クラスの男子の主張は「女子は、白、黒、紺、茶が認められているのに男子は白のみに限定するのは不公平ではないのか」というものだ。その気持ちは確かにわかる。ただ、先生方の意見としては「女子たちへの配慮の一環、また、白で困ることはあるの

校則の見直し

内閣官房書類小が中高指導の教科書に、
「シック校則」も呼ばれる不正
理取を是正すよう求めた。【「シック校則」】は学校の本質、真直しさで公開
的で貢献をもとめた。「シック」の意見を聞き、
それを踏まえ、子どもを保護者ら
の意見を聞いていたが望まし
いことだ。少教院の監視をも
うめぐらせるなどして監視した。
又新校は昨年、各都道府県
教育などに向け、社会や時代
に合わせて教科書を改訂する
ことを求める通知を出してお
り、学校現場に一層の対応を
求めた。改訂の特徴は、
改訂した件に出向く教師の
授業に合わせて教科書を改訂す
ることだ。日本が批准
する「子の意見表示条約」によ
れば、「子の意見を尊重する」と
いう規範が定められた
たのは、学校の運営が社会問題
化した1990年代だ。その後、
「国際的標準の連携教育が批
判され、一部は議論された」
岡山県では弁護士会の協調
のもと、95年夏までに「シック
校則」の中身を改めるとの
すむ決意が公表された。

な説明が各地にあつたことが明
かになった。田舎を申し入れた。
社会の常識に照らし、必要
性が説明できない状況はま
だかに見直したい。その際大
事にしたいのは見直す従事者
にいた防寒用のマフラーを除いて
はねが使えるようになら、詰活
動の後はわざわざ脱帽して着け
てなども下校を歩くときに
自分の立場を守るために

社説

子どもを主役に進めたい

2022.9.17

「校則」という
身近なテーマか
ら、意見の対立に

どう折り合いをつけるかという普遍的な問題に切り込んでいます。社会的課題に正面から向き合う誠実さにあふれた文章です。

たた
否定するわけではないが、男子
の対立をどう折り合いをつけるか、そ
の焦点だ。

これを機に改めて感じたのが、意見
の対立をどう折り合いをつけるか、そ
の焦点だ。

と女子という間にはどうしても違いが
生まれてしまう。多様性や尊重という
のはあくまでもその違いを認めること
であって、みんな同じにしようという
ものではない。そこがこの議題の最大

「校則を変える」「自分たちで考え
る」「お互いの意見を取り入れる」と
いうことは口で言つほど軽くはない。
ただ、そんな学校にしていいけるよう最
善の努力をしていくとともにどんな方
針になろうとより良い学校へしていけ
るように活動したいと思う。

して社会の風潮と学校教育の違いをどう捉えていくべきかという二つの難解さだ。もちろん、この記事のように、校則改定について力を注ぎ、自分たちで考えて変えていくことが一番なのだろう。しかし、先生方が校則を簡単に変えられない理由もよくわかる。双方の意見に折り合いをつけることが最も重要だが、必ずどちらかの意見は通らないことになってしまふ。その対立をどう乗り越えていくべきか頭を悩ませている。